

あなたもカウンセラー

～児童生徒相互の好ましい人間関係づくりをめざして～

教育相談部

118号 互いに理解し合うことをめざした指導援助

119号 互いの信頼関係を深めることをめざした指導援助

120号 互いのよさを認めながら生かすことをめざした指導援助

1 何かないかなあ？



うちの学級は、
・忘れ物をする生徒が多いなあ。
・それに、宿題をやってこない生徒も多い。

・おまけに、授業中はうるさい。

何かないかなあ？思いどおりの学級が
くれるいいアイデアは。

5月の半ば、中学校1年を担任する教師がこんな気持ちを抱いて書店を訪ねました。

あります。あります。「忘れ物をなくすには……」、「宿題をさせるには……」、「授業中静かにさせるには……」。これは、まさに「かゆいところに手が届く」といった状態です。

さっそく1冊購入してマニュアルどおり実行。効果はてきめん。担任は、学級が落ち着いてきたことに満足していました。

2 さえないタケシ

このような学級の中で、タケシも落ち着きを見せてきた一人です。この2か月、彼は先生の指示を守ろうと必死に努めてきました。

7月初旬のある日、放課後の教室です。

タケシ：「あ～あ、疲れた。
部活にでも行くかあ」

サチコ：「どうしたの？」

タケシ：「サッチかあ。学校って、先生に言われたことを毎日繰り返すだけだろ。疲れちゃうよ。……まったく」

サチコ：「……そういわれれば、そうだけど……」



こんな会話をしているタケシを、思わず担任はじっと見つめてしまいました。

その表情はさえず、声も心なしか力がありません。『前はもっとやる気があったのになあ。そういえば、笑顔も減ってきたような気がする……。』こんなことを担任は思いました。

本連載では、学級経営の土台となる「好ましい人間関係」づくりに腐心する担任の取り組みを、タケシの心に焦点をあてながら紹介していきます。